

- 日高地方はみなべ町を中心にうめ栽培の盛んな地域である。しかし、**主要品種である「南高」は自家不和合性であるため、天候に起因する受粉不良や黒星病等の病害虫の発生により生産量が不安定**である。
- また、梅干しの販売価格は、需要や在庫、作柄等の要因により大きく変動するため、**梅干し生産に特化した農家の経営は不安定となりやすい**。そのため、経営上のリスク分散が重要で、**青梅生産の拡大や「露茜」等の新規需要が期待される品種の導入が必要**である。
- さらに、うめの収穫期を中心に労働力不足が問題となっているため、**産地における労働力確保に向けた取組を支援し、うめ産地の継承と地域の活性化**を目指す。

### 具体的な成果

#### 1. うめ産地の競争力強化

■ **①新品種「星高」、「星秀」の導入**  
和歌山県果樹試験場うめ研究所が開発した自家不和合性で黒星病に強い新品種「星高」、「星秀」を導入する。

(R3 → R4) 導入農家 20戸 → 51戸  
栽培面積 1ha → 4ha

#### ■ **②青梅の生産拡大の推進**

青梅生産の収穫労力軽減と収量確保のため、カットバックと摘心処理を組み合わせることで樹体を低樹高化する栽培方法を導入する。

(R3 → R4) 導入面積 0.3ha → 1ha

#### ■ **③「露茜」の生産振興**

「露茜」の収量が不安定であるため、本年度からは安定生産技術の普及を目指した技術指導を実施する。

R4出荷量 目標:20t → 実績:24t

#### 2. 多様な労働力確保

■労働力対策として、みなべ町内の民間人材紹介会社と連携し、農家と援農者のマッチングに取り組むと共に、援農者の技術力向上のため、技術指導を実施する。

(R3 → R4) 援農者 24人(収穫15人、せんだい5人) → 77人(収穫67人、せんだい10人)

### 普及指導員の活動

令和4年度

■ **①「星高」、「星秀」の実証ほをみなべ町に設置し、着果数・黒星病発病率を調査し生産者へ情報を提供した。**

■ **②カットバック+摘心処理実証ほを日高川町に設置し、剪定・カットバック講習会を10月及び11月に実施した。摘心処理はみなべ町と日高川町で講習会をそれぞれ4月と5月に実施し、技術指導を行った。**

■ **③「露茜」結実安定を実証するため、印南町に新たな受粉用候補品種として「麗和」及び「和郷」の2年生苗を植栽した実証ほを設置した。本年度は着花がなかったので、別途準備した花粉で人工授粉を行い、令和5年度より「露茜」との親和性調査を実施する。**

■ **民間人材紹介会社の取組により、収穫作業67名、せんだい作業10名の労働力が確保され、せんだい作業者に対し若手農家と連携して剪定講習を実施した。**

### 普及指導員だからできたこと

■ **農業者に対しどのような支援が必要か適切に把握し、新技術導入及び課題解決への取り組みを実施するためには先進農業者、JA、研究機関、市町村等を取り纏め綿密な連携が必要である。普及指導員だからこそ地域の関係者を取りまとめ、取り組みを実施できた。**

## うめ産地の競争力強化と労働力確保対策

活動期間：令和3年度～(継続中：令和5年度)

### 1. 取組の背景

日高地方はみなべ町を中心にうめ栽培の盛んな地域である。しかし、主要品種である「南高」は自家不和合性であるため、天候に起因する受粉不良や黒星病等の病害虫の発生により生産量が不安定である。このため、自家和合性であるとともに、「南高」と開花期が一致し、病害虫に強い品種が望まれている。

また、梅干しの販売価格は、需要や在庫、作柄等の要因により大きく変動するため、「南高」による梅干し生産に特化した農家の経営は不安定となりやすい。そのため、経営上のリスク分散が重要で、青梅生産の拡大や「露茜」等の新規需要が期待される品種の導入が必要である。

さらに、うめの収穫期を中心に労働力不足が問題となっているため、産地における労働力確保に向けた取組を支援し、うめ産地の継承と地域の活性化を目指す。

### 2. 活動内容

#### (1) うめ産地の競争力強化

##### ア 新品種「星高」、「星秀」の導入

うめ研究所が育成した自家和合性で黒星病に強い新品種「星高」、「星秀」を、みなべ町山内地区で高接ぎし、実証活動を行っている。本年度は、着果数及び黒星病の発病を5月19日に、2月に開花状況を調査した。



##### イ 青梅の生産拡大

青梅生産の収穫労力等軽減と収量の確保を図るため、低樹高化(カットバック)に摘心処理を組み合わせ、引き続き効果を実証した。新梢摘心講習会は、日高川町松瀬で4月22日及び5月23日に、みなべ町西本庄で4月27日及び5月25日に、みなべ町筋で5月24日に実施した。また、収量調査を6月13日(印南町印南)及び24日(みなべ町清川)にて行った。さらにせん定・カットバック処理講習会を10月21日(みなべ町筋)及び11月10日(日高川町松瀬)にて開催した。

##### ウ 「露茜」の生産振興

「露茜」の振興は、これまで栽培面積の拡大を中心に取り組んできたが、収量が不安定であるため、本年度からは安定生産技術の普及を目指した技術指導に注力することとした。

##### エ 新害虫の侵入警戒と防除啓発

クビアカツヤカミキリの迅速な情報共有や通報体制を構築するため、R元年度に日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議(各市町、JA紀州(以下JA)、うめ研究所、日高振興局等で構成)を設置している。本年度は日高全域の桜植栽地(85地点)の発生状況調査

を3回/年実施するとともに、10月12日に連絡会議を招集し、万一日高地域において本カミキリの発生が確認された場合の初動調査体制について確認した。

なお、うめ園地における発生状況については、日高果樹技術者協議会（JA、日高振興局等で構成）の3回/年の梅着果状況調査（140園）時に確認した。

モモヒメヨコバイは、うめ研究所、JAと連携して発生状況調査を行うとともに、西牟婁地域と共同で防除啓発チラシを1,000部作成した。

## （2）多様な労働力確保

### ア 援農者受入環境の整備

コロナ禍で活動を中断していたみなべ町労働力対策協議会（みなべ町各種農業団体、JA、みなべ町、振興局等で構成）に対し、活動再開を促した。

労働力対策として、みなべ町内の民間人材紹介会社と連携し援農者のマッチングに取り組んだ。

また、援農者のせん定技術を向上させるため、地域の若手農家と連携して技術指導を行った。

### イ 求人サイトへの参画誘導

無料人材紹介として、JAグループ和歌山が運営する求人サイトへのJAの参画を促した。



援農者へのせん定指導

## 3. 具体的な成果

### （1）うめ産地の競争力強化

#### ア 新品種「星高」、「星秀」の導入

高接ぎ枝の着果数を調査した結果、3年目の「星高」は142果、2年目の「星秀」は8果で、生育とともに増加している。黒星病の発病果率は「星高」、「星秀」、対照の「南高」ともに0%であった。

開花状況調査では、満開期は「星高」2月18日、「星秀」2月10日、「南高」2月17日頃であった。

「星秀」、「星高」の導入面積は、昨年から2.4ha増加し、4.0haとなった。

#### イ 青梅の生産拡大

低樹高化実証園の収量調査は平均119.4kg/樹（2,387kg/10a）であった。

摘心講習会の参加者は28名、せん定・カットバック講習会の参加者は34名であり、「結果枝が充実しているのがわかる、樹高が低くなり作業しやすい」などの声が聞かれた。

本技術は、R4までに約1haの園地で導入されている。



せん定・カットバック講習会

#### ウ 「露茜」の生産振興

新たな実証展示ほの設置予定園（印南町印南）は、隣園に「南高」が多数植栽されているにも関わらず「露茜」の着果状況が思わしくない。そこで、新たな受粉用候補品種として「麗和」及び「和郷」の2年生苗を植栽した。本年度は着花がないため、別途準備した花粉を用い、人工授粉による「露茜」との親和性調査を試みている。

## エ 新害虫の侵入警戒と防除啓発

桜植栽地及びうめ園でのクビアカツヤカミキリの発生及び被害は見られなかった。また、マスコミの活用と広報活動により啓発を行ったところ、一般住民からのクビアカツヤカミキリ疑いの通報が計3件あり、普及指導員等が現地を確認したが、いずれもクビアカツヤカミキリではなかった。

モモヒメヨコバイの防除啓発では、8月～11月に3剤の農薬が登録されたため、西牟婁地域と共同で防除啓発チラシを作成し、2月22日に136名の梅農家に配布した。



クビアカツヤカミキリ  
発生状況調査



モモヒメヨコバイ  
防除啓発チラシ

## (2) 多様な労働力確保

### ア 援農者受入環境の整備

みなべ町労働力対策協議会の取組は、みなべ町農業振興協議会（みなべ町各種農業団体、JA、みなべ町、振興局等で構成）が引継ぎ、継続して労働者を確保するための活動を行うことになった。

民間人材紹介会社の取組により、収穫作業で67名、せん定作業で10名の労働力が確保され、生産者から好評であった。また、遠方からの労働力を受け入れる場合は宿泊施設が必要となるが、受入希望農家が中心となり空き家等を探した結果、18軒（65人分）の宿泊場所が確保されている。

### イ 求人サイトへの参画誘導

JAに対しJAグループ和歌山振興センターが運営する求人サイトの参画を促したが、JA内の受入体制の整備が間に合わず、参画はR5年度へ延期となった。

## 4. 農家等からの評価・コメント

(みなべ町 K氏)

「露茜」は収穫期が「南高」よりも遅いため、労力の分散につながるとともに、梅干しとは異なる新たな需要創出が期待されるため、有望視している。しかし、生産量を安定させることが難しく感じているため、安定生産技術の早期普及をお願いしたい。

(みなべ町 N氏)

「星秀」は、優良な受粉樹であるだけでなく、果実品質も良好であるため、供給体制の充実を期待したい。また「星高」についても、開花期が「南高」とややずれるものの、受粉樹のバリエーションを増やすうえで貴重な品種と考えるので、引き続き普及を進めていただきたい。

## 5. 普及指導員のコメント（日高振興局農業水産振興課・主査・沼口孝司）

「露茜」は、「南高」と比較して開花期が非常に遅い自家不和合性品種である。そのため、「南高」に代わる受粉用品種が必要であると考えている。農研機構育成の新品種「麗和」及び「和郷」は「露茜」と開花時期が近く、花粉量が多い自家和合性品種であり、受粉用品種として有望である。今後、導入効果を実証展示し、普及につなげたい。

## 6. 現状・今後の展開等

うめ産地の競争力を強化するため、引き続き新品種や、青梅生産の収穫労力軽減を目的とした低樹高化技術の実証展示、「露茜」の安定生産技術の普及、クビアカツヤカミキリの侵入警戒とモモヒメヨコバイの防除啓発に取り組む。

また、労働力確保に向けた受入体制の整備や雇用者への意識啓発等の協議会活動への支援を継続する。